

2023.12.10.日本作業療法士協会：災害支援研修会

用語から学ぶ！ 災害リハビリテーション「基本のキ」

日本作業療法士協会 災害対策課

この講義の到達目標

- 災害リハビリテーション支援活動時に使用される主な用語について理解する
- 災害時に支援活動を行う各団体の支援チームを知る
- 災害支援に関する研修会について知る

この講義の構成



用語編

- 災害支援活動の現場や平時からの災害対策において、よく耳にする用語について解説します。

支援チーム編

- 災害支援活動において共同する各団体等の支援チームについて解説します。

研修会・研修ツール編

- 災害医療や災害リハビリテーションに関する知識や技術を学ぶことのできる研修会や研修ツールについて紹介します。

用語編

CSCATTT

ロジスティクス

クロノロジー

保健医療福祉
調整本部

リエゾン

災害リハビリ
テーション

トリアージ

生活不活発病

CHECTP

福祉避難所

スフィア基準

PFA

災害拠点病院

BCP

① CSCATTT : 災害医療の基本原則

- **C**ommand&Control 【指揮、統制】
- **S**afty 【安全】
- **C**ommunication 【情報伝達】
- **A**ssessment 【評価】

医療管理項目
Medical management

- **T**riage 【トリアージ】
- **T**reatment 【治療】
- **T**ransport 【搬送】

医療支援項目
Medical support

②ロジスティクス(logistics) ; ロジ

- 日本語訳は「兵站」
- 部隊の後方において軍隊の戦闘力を維持し、継続的に作戦行動を可能とする機能や活動、組織の全般
- 人員を適切に配置し全体の効率化を高める手法

「後方支援」 「マネジメント」

- ロジスティクス担当者を「ロジ」と呼んでいる

災害支援活動と ロジスティクス

- 災害対策本部の立ち上げ
- 各災害対策本部の運営
- 情報の管理
- 資源の管理
- 支援活動の後方支援

派遣チームの ロジスティクス

派遣前

- 情報収集(被災状況、支援ニーズ)
 - 派遣日程調整
 - 派遣依頼文・各種証明書・保険等への対応
 - 移動手段の確保
 - 宿泊場所の確保
 - 生活用品の準備
 - 活動時資機材の準備
- など

活動中～活動後

- 活動指示受け、報告・連絡・相談
 - 活動報告書等作成
 - 生活用品・資機材の補充・調達
 - 活動費用支弁への対応
- など

③ クロノロジー (chronology)

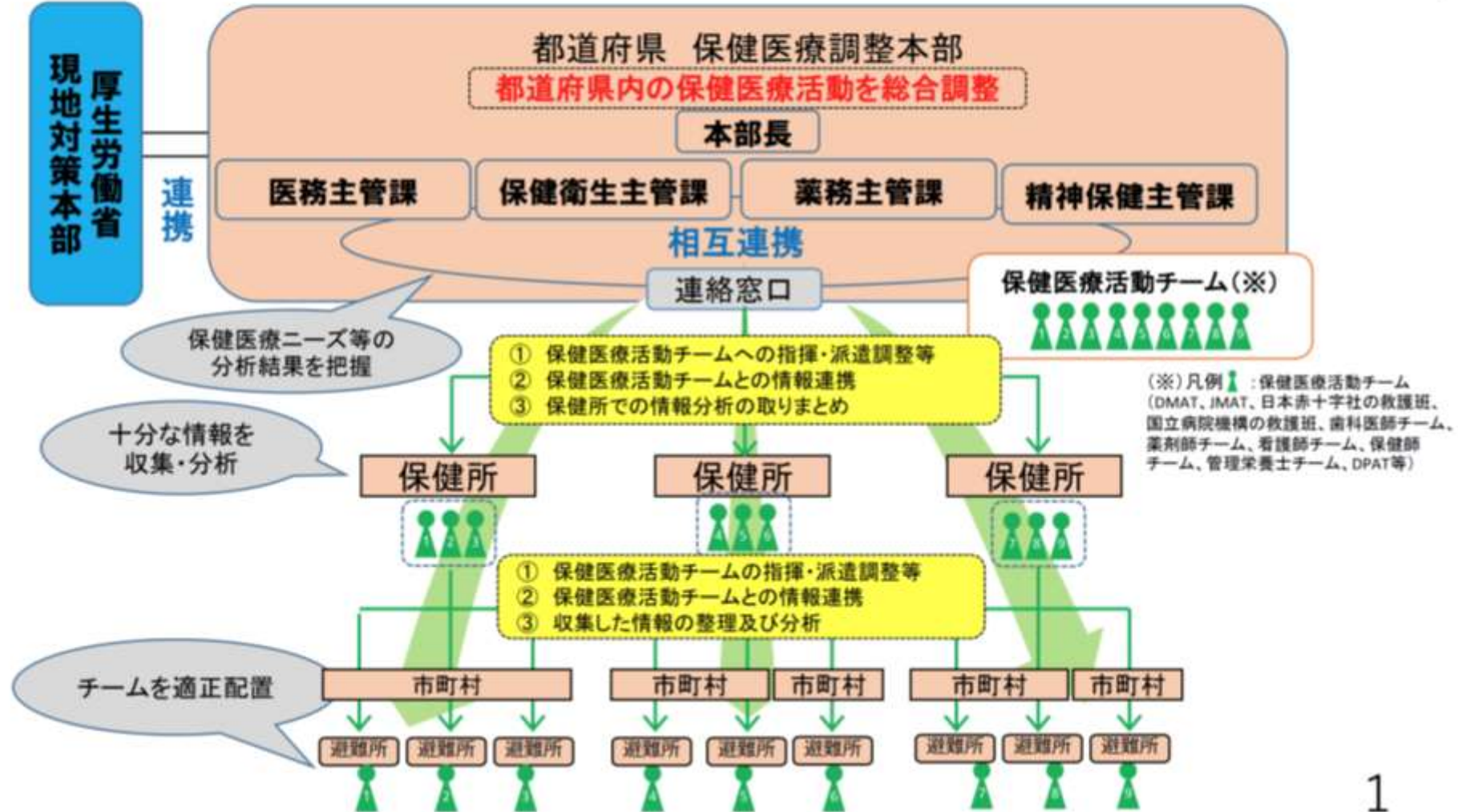
- 通称「クロノ」
- 経時活動記録のことを指し、時系列に出来事を記録し、共有するためのツール
- 本部に入った情報や指示事項を時刻とともに記載する
- 発信元（発）、発信先（受）を明記する
- 専属の記録員を置いて記載することが多い
- 定期的に本部要員で共有、見直し、方針を明記する
- 予定については、予定が立った時刻を記載し、その横に予定事項、予定時間を記載する
- ホワイトボードやライティングシートに記録し、その後に電子化して保存するが多い

④ 保健医療福祉調整本部

- 大規模災害時における保健医療福祉の支援体制において、被災都道府県に設置される
- 保健医療福祉活動に関する情報の連携、整理および分析や、支援チームの派遣調整などの支援活動を総合的に調整する
- 構成員
 - 災害医療コーディネーター
 - 被災都道府県の医務、保健衛生、薬務、精神保健等の主管課
 - 保健所・DHEAT
 - 連絡窓口：DMAT、DPAT、JMAT、JDA-DAT、**JRAT**など

大規模災害時の保健医療活動に係る体制の整備について（平成29年7月通知）

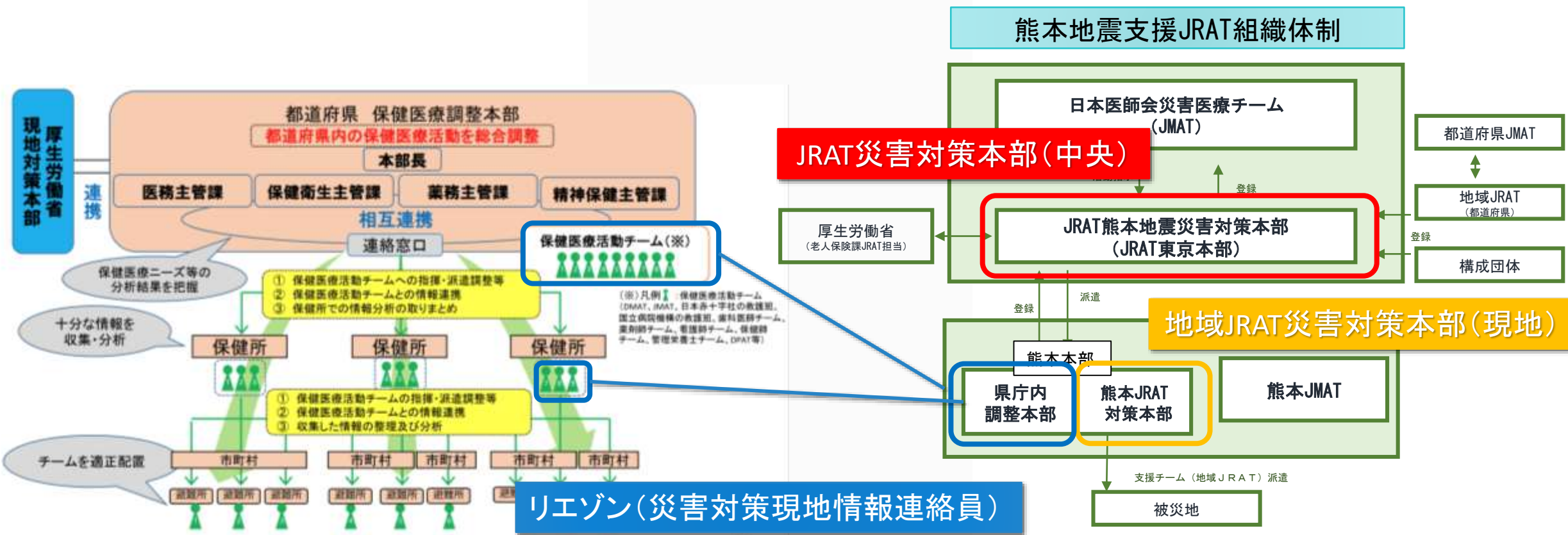
- 熊本地震の経験を踏まえ、被災都道府県に設置された保健医療調整本部において、保健所と連携し、
- ① 保健医療活動チームに対する指揮、連絡及び派遣調整
 - ② 保健医療活動チームとの情報連携
 - ③ 収集した保健医療活動に係る情報の整理及び分析
- を一元的に実施し、保健医療活動を総合調整する体制を整備する。



⑤リエゾン

- 「災害対策現地情報連絡員」のことを指す
- 被災自治体に派遣され情報収集や支援ニーズの把握を積極的に行い、円滑な支援活動に貢献する人員

JRAT活動における各『本部』



⑥災害リハビリテーション

災害時に起こる被災者・要配慮者等の生活不活発および災害関連死を防ぐために、リハビリテーション医学・医療の視点から、関連専門職が組織的に支援を展開し、被災者・要配慮者などの早期自立生活の再建・復興を目指す活動の全て

(2019.4. J R A T)

災害のフェーズに合わせたリハビリ支援

(災害に関連した身体機能, 生活能力の低下予防)



リハビリテーション トライアージ

- 避難所の住環境評価と整備
- 動きやすい居住環境のアドバイスや応急的環境整備
- 避難所支援物資の適切な選定と設置
(段ボールベッドなど)

生活不活発病予防

避難所や施設での
リハビリテーション
支援活動

健康支援

地域に根付いた
リハビリテーションへの
移行支援

災害リハビリテーション対応の原則： C S C A R I C

- **C**ommand&Control 【指揮、統制】
 - **S**afty 【安全】
 - **C**ommunication 【情報伝達】
 - **A**ssessment 【評価】
-
- **R**ehabilitation Triage 【リハビリテーショントリアージ】
 - **I**CF 【国際生活機能分類にあわせた対応】
 - **C**BR 【地域リハビリテーション活動への移行】

⑦災害時の「トリアージ」

- 災害時は医療資源と傷病者との不均衡が生じるため、最大多数の最大幸福の概念の下、多数の傷病者を速やかな診療や搬送に繋げるために、医療資源の分配順位、すなわち治療の優先順位を決定する必要がある。この作業を「トリアージ」と呼ぶ

トリアージの区分と方法

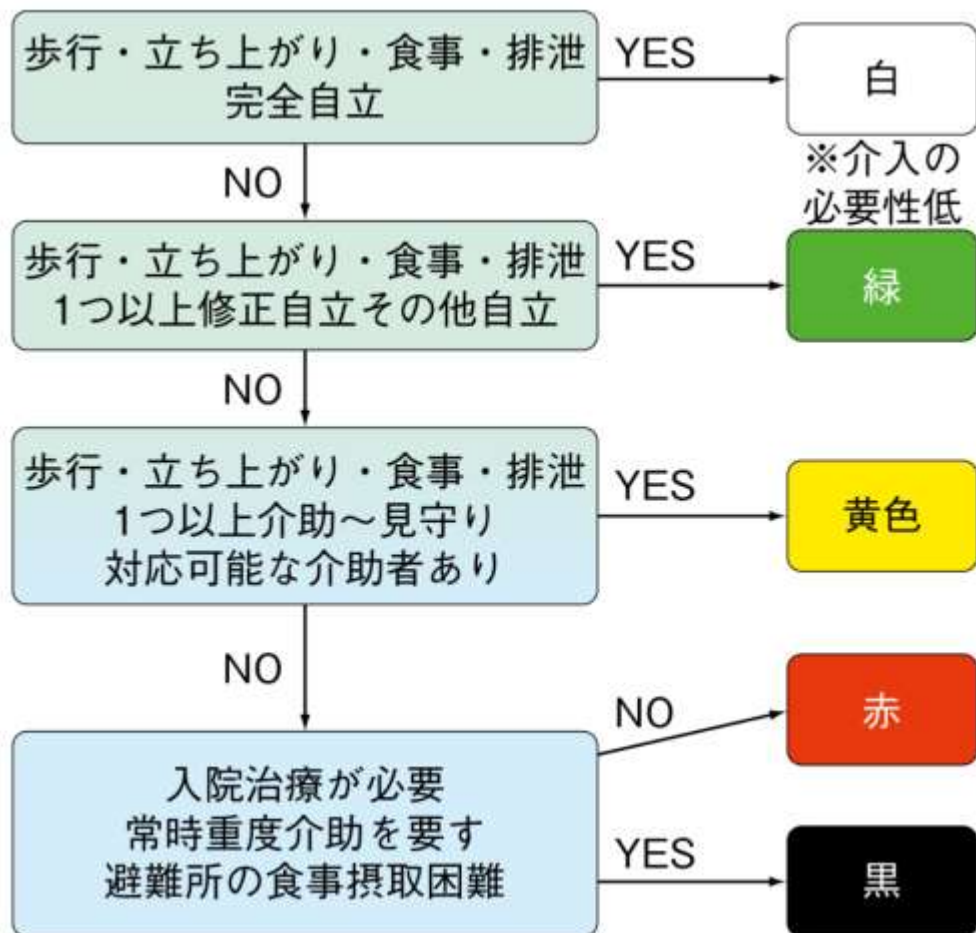
区分

- 区分Ⅲ（緑）・・・治療不要もしくは軽処置群
- 区分Ⅱ（黄）・・・待機治療群
- 区分Ⅰ（赤）・・・最優先治療群
- 区分Ⅰ（黒）・・・上記対象以外
(死亡もしくは救命困難群)

方法

- 一次トリアージとしてのSTART法
- 二次トリアージとしてのPAT法
- トリアージには迅速性と正確性を両立できないので、繰り返し行う必要があります

リハビリテーション・トリアージの一例



緑
個別介入の必要性は
乏しいが予防的介入、
指導が必要

黄
支援者に対する
リハビリテーション
指導のうえ介入が必要

赤
JRATによる
個別介入を検討

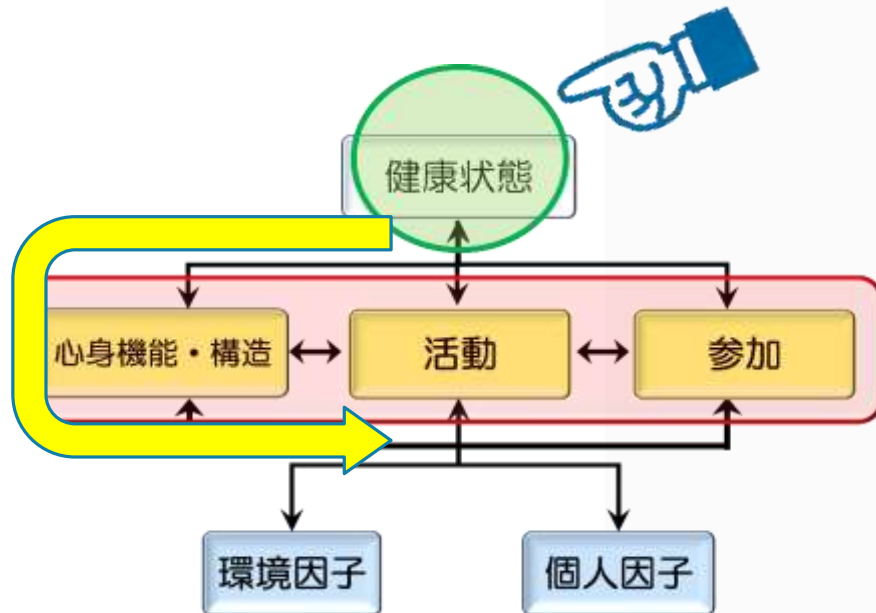
黒
当該施設への
搬送を検討

⑧ 災害時の「生活不活発病」

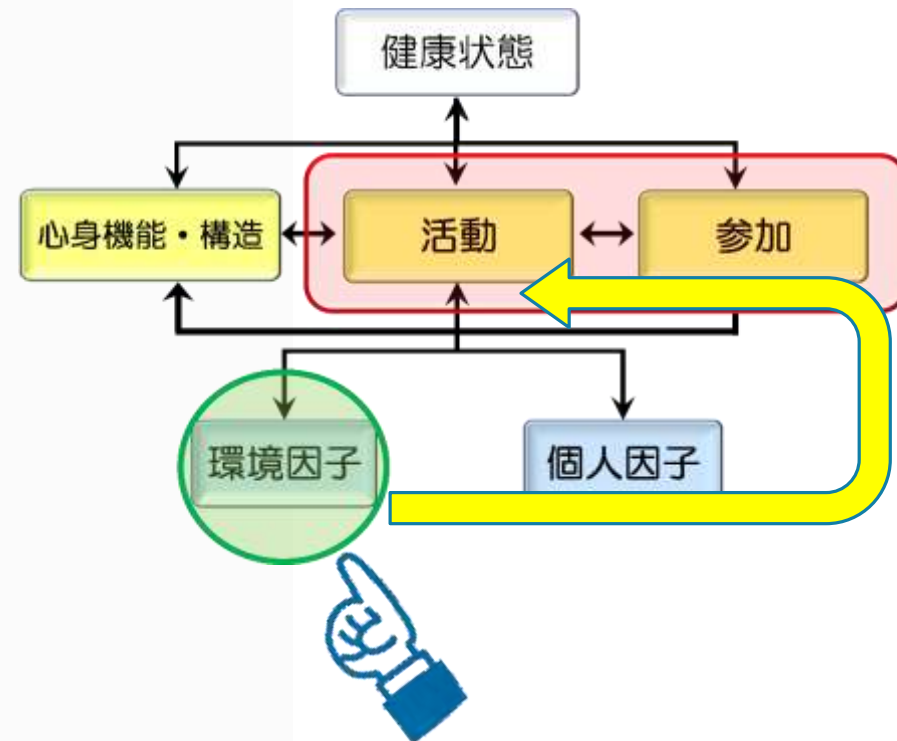
- 災害後の生活環境の変化や活動性の低下によって、筋力低下をはじめ循環器疾患や呼吸器疾患の発症や増悪を来す。
- 災害時の生活不活発病を起こす諸要因としては、①「することがないの
で動かない」、②「環境因子の激変」、③「遠慮」などがあり、これらのマ
イナスの相互作用の影響が考えられる。

ICFからみる災害時の生活不活発病

疾患の場合



災害の場合



⑨福祉避難所

- 避難所の中でも、高齢者、障害者、妊婦など、避難所の生活において特別な配慮が必要な方（災害時要配慮者）とその家族を受け入れる避難所を『福祉避難所』という。
- 福祉避難所は、災害対策基本法において規定され、市町村長によって指定される。
- 福祉避難所には、老人福祉施設、障害者支援施設、児童福祉施設、特別支援学校、民間宿泊施設、公共施設などが指定される。

⑩ CHECTP

- 災害時に被害を受けやすく、支援を必要とする「災害時要配慮者」（災害弱者）の事である。
- 子供（CChildren）、障害のある方（HHandicapped）、高齢者（Elderly people）、慢性疾患の方（CChronically ill）、旅行者（TTourist）、妊産婦（Pregnant）の頭文字から「CHECTP」（チエクトピー）と言われている

⑪ スフィア基準

- 『人道憲章と人道支援における最低基準』
- 災害や紛争の影響を受けた人びとの「尊厳ある生活を営む権利」や「人道支援を受ける権利」などに基づいた支援活動の最低基準について定めたもの
- ハンドブックとしてまとめられ、日本語訳は2018年度版が無償ダウンロード可能

https://jqan.info/wpJQ/wp-content/uploads/2020/04/spherehandbook2018_jpn_web_April2020.pdf

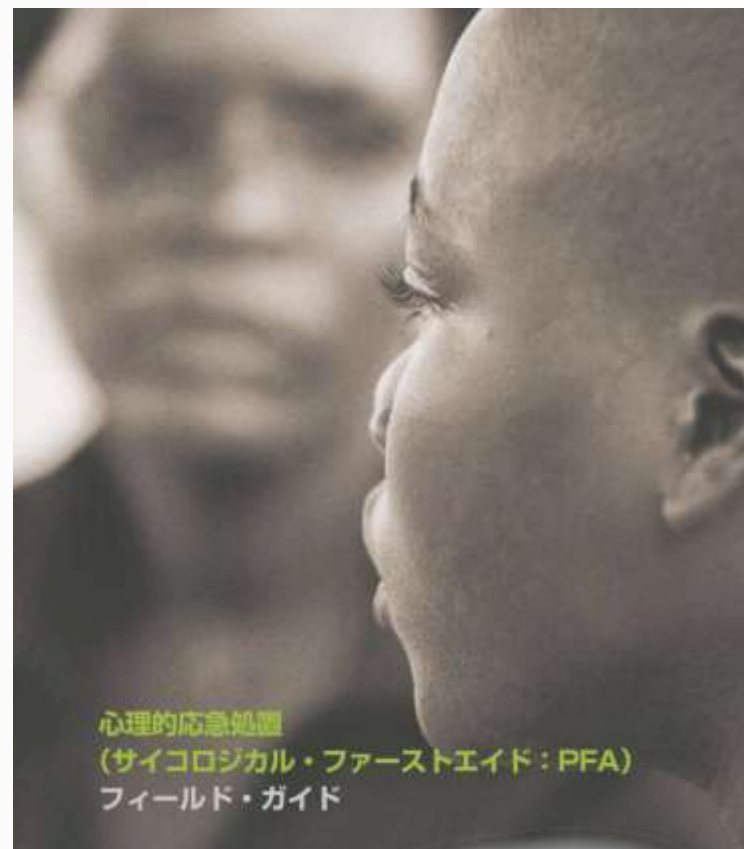


スフィア・ハンドブックの構成

- 人道憲章
- 権利保護の原則
- 人道支援の必須基準（CHS）
- 給水、衛生および衛生促進（WASH）
- 食料安全保障および栄養
- 避難所および避難先の居住地
- 保健医療

⑫ PFA : サイコロジカル・ファーストエイド

- 心理的応急措置
- 苦しんでいる人、助けが必要かもしれない人に、同じ人間として行う、人道的、支持的な対応のこと
- 災害発生後早期に推奨されている心理的な支援法
- 専門的対応というよりは、多くの支援者が基本的に行うべき対応
- いくつかのバージョンが存在



PFAの行動原則

見る



- 安全確認
- 明らかに急を要する基本的ニーズがある人の確認
- 深刻なストレス反応を示す人の確認

聞く



- 支援が必要と思われる人びとに寄り添う
- 必要なものや気がかりなことについてたずねる
- 人びとに耳を傾け、気持ちを落ち着かせる手助けをする

つなぐ

- 生きていく上での基本的なニーズが満たされ、サービスが受けられるよう手助けする
- 自分で問題に対処できるよう手助けする
- 情報を提供する
- 人びとを大切な人や社会的支援へと結びつける

* 事前準備（現場の状況や支援についての情報収集）が必要
* さらに専門的な支援に「つなぐ」ことも考慮する

⑬ 災害拠点病院

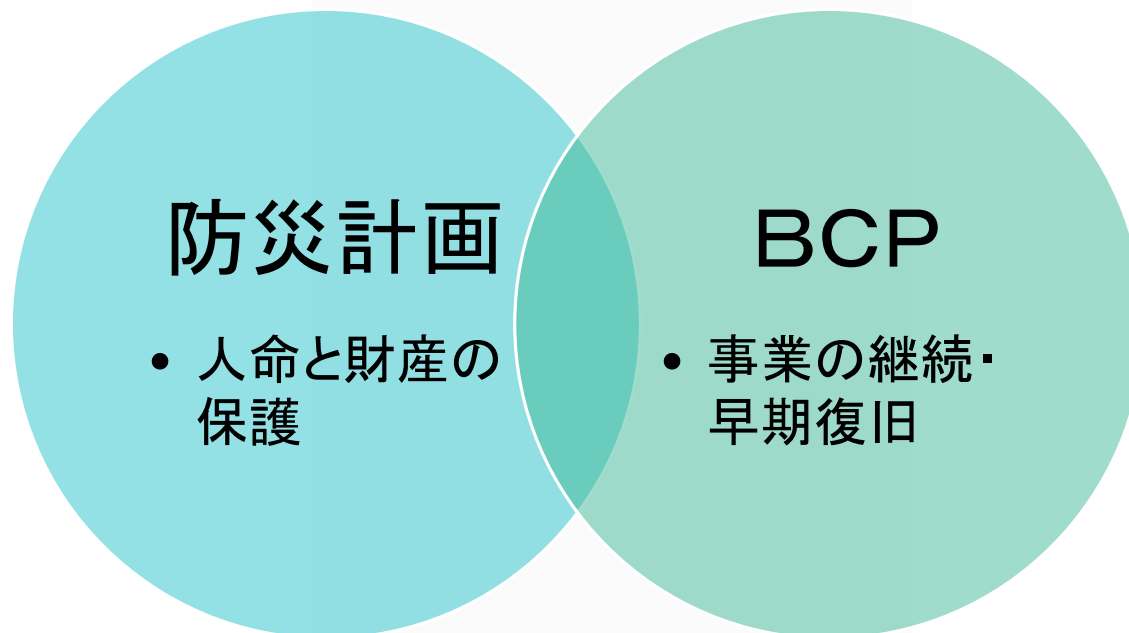
- 災害時における初期救急医療体制の充実を図るための医療機関
- 「基幹災害拠点病院」と「地域災害拠点病院」がある
- 都道府県知事が指定し、全国で770病院が指定されている（基幹：64病院、地域：706病院） * 令和5年4月1日現在

災害拠点病院の機能

- 24時間いつでも災害に対する緊急対応ができ、被災地域内の傷病者の受け入れ・搬出が可能な体制を持つ。
- 重症傷病者の受け入れ拠点になる。また、ヘリコプターによる傷病者、医療物資等のピストン輸送を行える機能がある。
- 災害派遣医療チーム（DMAT）を保有し、その派遣体制がある。
- 地域の二次救急医療機関とともに定期的な訓練を実施し、災害時に地域の医療機関への支援を行う体制を整えている。

⑭ BCP：事業継続計画

- 自然災害、感染症、大事故などの緊急事態において、組織が重要な事業や活動を中断させない、または中断しても可能な限り短い時間で復旧させるため、事前に方針や体制、手順等を示した計画のこと



介護施設・事業所における災害対策 (業務継続に向けた取り組みの義務化)

1. 感染症や災害への対応力強化

■感染症や災害が発生した場合であっても、利用者に必要なサービスが安定的・継続的に提供される体制を構築

(1) 日頃からの備えと業務継続に向けた取組の推進

○感染症対策の強化

介護サービス事業者に、**感染症の発生及びまん延等に関する取組の徹底を求める観点から**、以下の取組を義務づける。

- ・ **施設系サービス**について、現行の委員会の開催、指針の整備、研修の実施等に加え、訓練（シミュレーション）の実施
- ・ **その他のサービス**について、委員会の開催、指針の整備、研修の実施、訓練（シミュレーション）の実施等

(※3年の経過措置期間を設ける)

○業務継続に向けた取組の強化

感染症や災害が発生した場合であっても、**必要な介護サービスが継続的に提供できる体制を構築する観点から**、全ての介護サービス事業者を対象に、業務継続に向けた計画等の策定、研修の実施、訓練（シミュレーション）の実施等を義務づける。

(※3年の経過措置期間を設ける)

○災害への地域と連携した対応の強化

災害への対応においては、地域との連携が不可欠であることを踏まえ、非常災害対策（計画策定、関係機関との連携体制の確保、避難等訓練の実施等）が求められる介護サービス事業者（通所系、短期入所系、特定、施設系）を対象に、小多機等の例を参考に、**訓練の実施に当たって、地域住民の参加が得られるよう連携に努めなければならないこととする。**

○通所介護等の事業所規模別の報酬等に関する対応

通所介護等の報酬について、感染症や災害の影響により利用者数が減少した場合に、**状況に即した安定的なサービス提供を可能とする観点から**、足下の利用者数に応じて柔軟に事業所規模別の各区分の報酬単価による算定を可能とするとともに、**臨時的な利用者数の減少に対応するための評価を設定する。**

介護施設・事業所における
自然災害発生時の
業務継続ガイドライン

厚生労働省老健局

令和2年12月

介護サービス事業者に 求められる役割

- サービスの継続
- 利用者の安全確保
- 職員の安全確保
- 地域への貢献

事前の対策（何をしておくか）
発災時の対策（どう行動するか）

<https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/000704787.pdf>

支援チーム編

JRAT

DMAT

DPAT

JMAT

DHEAT

DWAT

JDA-DAT

JRAT (Japan disaster Rehabilitation Assistance Team)

日本災害リハビリテーション支援協会

- 大規模災害時等において、救急救命に継続したリハビリテーションによる生活支援等により、生活不活発病等の災害関連死を防ぐことを目的として活動。
- リハビリテーション関連13団体により構成



**JAPAN DISASTER
REHABILITATION
Assistance Team**

<https://www.jrat.jp/>

DMAT (Disaster Medical Assistance Team)

災害派遣医療チーム

- 発災直後から48時間以内に活動する訓練を受けた医療チーム
- 活動内容：医療供給体制の支援、傷病者の生命を守る
- 本部活動：搬送, 情報収集, 診療, 初期の避難所等のサポート
- 1チームは医師・看護師・業務調整員の4名～5名で構成



<http://www.dmat.jp/dmat/dmat.html>

DPAT (Disaster Psychiatric Assistance Team)

災害派遣精神医療チーム

- 災害後に被災地域に入り、精神科医療および精神保健活動の支援を行う専門的なチーム
- 活動内容：既存の精神医療システムの支援、災害のストレスによって新たに生じた精神問題を抱える住民への対応
- 1チームは精神科医師・看護師・業務調整員で構成



<https://www.dpat.jp/about.php>

JMAT (Japan Medical Assistance Team)

日本医師会災害医療チーム

- 日本医師会が被災地外の都道府県医師会ごとにチームを編成し、被災地医師会からの要請に基づいて派遣。災害発生から72時間以降撤退するDMATと交替するようにして被災地に派遣され、地域の医療体制が回復するまでの間、医療支援を続ける。
 - ① 避難所・救護所等の被災者への医療、健康管理
 - ② 避難所等の公衆衛生対策
 - ③ 在宅患者の医療、健康管理



<https://jmat-hq.jp/>

DHEAT (Disaster Health Emergency Assistance Team)

災害時健康危機管理支援チーム

- 災害発生時に1週間から数か月程度、被災都道府県の保健医療調整本部と保健所が行う保健医療行政の指揮調整機能等を応援する専門チーム
- 水や食料、感染症、生活支援、廃棄物などの分野で、「公衆衛生」の観点から被災地のニーズをつかみ、自治体や保健所に助言する
- 公衆衛生の医師と保健師、事務担当者、薬剤師、管理栄養士ら、1チーム5人程度で構成

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000197835.html>

DWAT (Disaster Welfare Assistance Team)

災害福祉支援チーム

- 災害時において、災害時要配慮者の福祉ニーズに的確に対応し、避難生活中における生活機能の低下等の防止を図るため避難所で災害時要配慮者に対する福祉支援を行う支援チーム
- 各都道府県において、社会福祉関係団体や介護福祉士等の職能団体、社会福祉協議会等からなるネットワークを組織
- 介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員等から編成されるチームを派遣

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000209718.html>

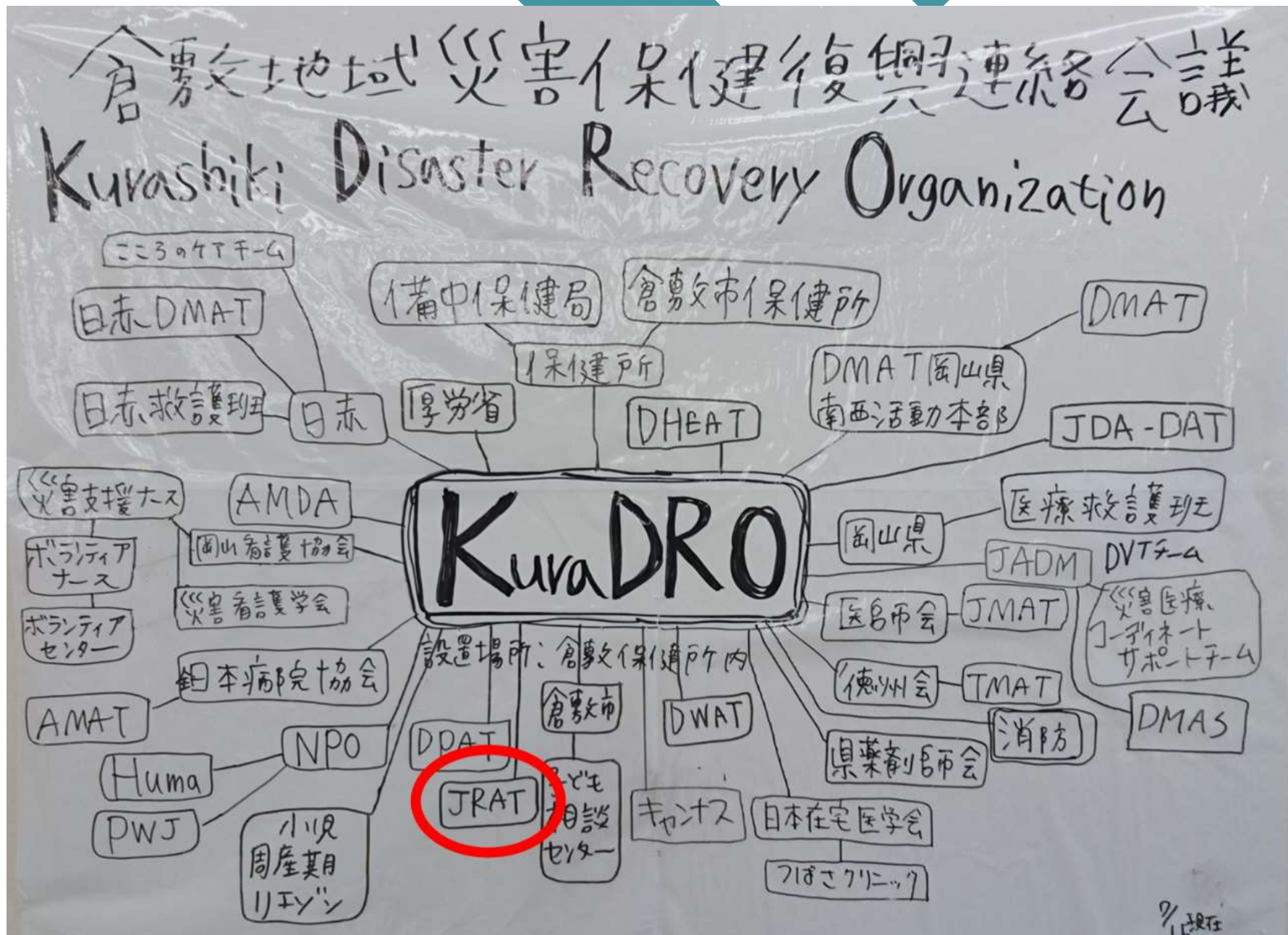
JDA-DAT (The Japan Dietetic Association- Disaster Assistance Team)

日本栄養士会災害支援チーム

- 国内外で大規模な自然災害（地震、台風など）が発生した場合、迅速に被災地内の医療・福祉・行政栄養部門と協力して、緊急栄養補給物資の支援など、状況に応じた栄養・食生活支援活動を通じ、被災地支援を行う支援チーム



まだまだあります
災害支援チーム



研修会・研修ツール編

JRAT-RRT
研修

JIMTEF災害
医療研修

PFA研修

BHELP研修

HUG

REHUG

BLS

エマルゴ

JRAT-RRT（R-スタッフ）養成研修

- JRAT支援活動において、大規模災害発災直後から早期に情報を収集し、現地での本部立ち上げや支援を必要とする初動対応を行い、被災地の JRAT 体制が整うまで支援するスタッフを養成する研修
- R-スタッフは勤務・所属先の長および地域 JRAT 代表から推薦により研修を受講し、JRAT が登録・委嘱する

JIMTEF災害医療研修

- 公益財団法人 国際医療技術財団（JIMTEF）が開催する研修会
- 医療技術分野のネットワークを活用し、大規模災害発生時の多種多様な状況に適切に対応出来る技術・知識を有する医療技術者の育成を図っている
- 研修コースは、ベーシックコース、アドバンスコース、スキルアップコースがある
- 災害医療の概論や災害医療の実際、避難所運営ゲームHUG、避難所アセスメントについて等を講義、演習、グループワークを通して学ぶ

BHELP研修

- 「地域保健・福祉における災害対応標準化トレーニングコース」
(Basic Health Emergency Life Support for Public)
- 一般社団法人 日本災害医学会が行う研修会
- 地域保健・福祉関連業務に従事する者を対象として、発災直後から避難所での活動を効果的・効率的に実践するために、災害対応における知識、共通の言語と原則を理解し、被災者の生命と健康の維持、災害発生直後からの被災地内での災害対応能力向上に資することを目的とした研修

HUG : 避難所運営ゲーム

- 静岡県危機管理局が企画・開発した、避難所の運営を疑似体験できる防災カードゲーム
- 次々に渡される様々な避難者のカードを、避難所となる体育館や教室に見立てた紙の上に、適切に配置していく
- トイレや炊き出しの場所、取材の対応など、避難所で起こる様々な出来事にも対応していく
- 「風水害バージョン」「要配慮者バージョン」などが存在する

REHUG : リハビリテーション本部運営ゲーム

- 活動本部と調整本部で生じる様々な出来事 への対応を疑似体験する、実践的なシミュレーションゲーム
- 支援チームの受け入れ（受援）、派遣、福祉用具の貸与、記録等、基本的な本部活動の運営をゲームを通して理解していく
- 災害リハビリテーションにおける「受援」という新しい体験をすることで、それぞれの役割の理解を深めることができる

BLS研修

- BLSとは、Basic Life Support の略称で、心肺停止または呼吸停止に対する一次救命処置のこと
- 一般市民や心肺停止に遭遇する可能性の高い方（医療従事者等）が、一次救命処置を理解し、自身の安全を確保した上で、人工呼吸を含む心肺蘇生及びAEDの操作を行うことが出来ることを目的とした研修
- 日本ACLS協会や日本赤十字社など、様々な団体が研修コースを開催している

エマルゴ研修

- Emergo Train System（エマルゴ・トレイン・システム、ETS）、日本ではエマルゴ・トレーニングシステム、通称「エマルゴ」と呼ばれている
- スウェーデンの災害医療・外傷学教育研究センターで開発された。救急・災害医療の机上シミュレーション
- 「プレホスピタル」「インホスピタル」「一般・企業」の3コースがある